

大会名 Competition	第37回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-114	Year Month Day Time 2024 年 5 月 5 日 14 : 15
場所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB
開志国際	83 ○	駒大苫小牧
	21 1st 13 19 2nd 12 23 3rd 10 20 4th 10 0 T	45 ●

主審:Crew chief
中道 凌平 秋田
副審:Umpire
松本 彩織 岩手
伊勢 友春 秋田
テーブル・オフィシャル:Table officials
能代科学技術高等学校

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	清水	脩真 cap	6	0	3	0	1	2	×	宮森	昊太	1	0	0	1	1
5	×	平良	宗龍	9	1	2	2	0	5		遠藤	三太	-	-	-	-	0
6	×	千保	銀河	5	1	1	0	0	8		佐々木	海波斗	-	-	-	-	0
7	/	矢作	悠吏	2	0	1	0	0	11	×	小野	翔馬	3	1	0	0	0
8	/	高野	拓泉	2	0	1	0	1	12		坂井	琉晟	-	-	-	-	0
9	/	前田	ヘリ-有聖	8	0	4	0	0	13		升屋	杏太	-	-	-	-	0
10	/	池田	楓真	4	0	2	0	0	14		大高	孝友	-	-	-	-	0
11	/	小泉	俊介	8	2	1	0	0	20	×	オヨリ マ-ヘ-ラス オウトヨシ		14	0	7	0	3
12	/	中塚	遼人	2	0	1	0	0	24		野中	友惺	-	-	-	-	0
13	×	高橋	歩路	11	3	1	0	1	25	×	浅利	蒼空	6	0	2	2	0
14	×	社	フィ ヌルビ-ン シェミ-リ-	6	0	3	0	1	29	/	佐々木	琉椰	0	0	0	0	0
15	/	サニ	アルセケン ファルク	10	0	4	2	1	55		袋井	想之介	-	-	-	-	0
16	/	平良	奏龍	10	1	3	1	0	61	/	阿部	日向大	14	2	4	0	2
17	/	北本	慶志	0	0	0	0	0	65	×	荒川	隼輝 cap	7	1	2	0	1
18	/	磯部	大悟	0	0	0	0	0	66		小林	雅楽	-	-	-	-	0
コーチ		富樫	英樹					0	コーチ		田島	範人					0
ア-コーチ		津野	祐樹					0	ア-コーチ		山田	友哉					0
合計				83	8	27	5	5	合計				45	4	15	3	7

※×:スターター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking[Team]

1	11	13.25%	高橋 歩路
2	10	12.05%	サニ アルセケン ファルク
3	10	12.05%	平良 奏龍

1	14	31.11%	オヨリ マ-ヘ-ラス オウトヨシ
2	14	31.11%	阿部 日向大
3	7	15.56%	荒川 隼輝

Score ranking[Game]

1	14	オヨリ マ-ヘ-ラス オウトヨシ	駒大苫小牧	1	14	阿部 日向大	駒大苫小牧	3	11	高橋 歩路	開志国際
---	----	------------------	-------	---	----	--------	-------	---	----	-------	------

これまで3勝1敗の開志国際と1勝3敗の駒大苫小牧、両チームとも今大会最後のゲームとなった。

1Q、両チームともハーフコートのマンツーマンディフェンスでスタート。開志国際はリバウンドからの速い展開に効果的に3Pを絡めながら加点、駒大苫小牧は#20オウトヨシのインサイドを中心に得点する。終了間際に#14シェミリーがダンクを決めるなど、開志国際が21-13でリードして終了。

2Q、序盤、攻めあぐむ駒大苫小牧に対し、開志国際は#15ファルクのバスケットカウントなど、多彩な攻撃で勢いに乗る。点差を詰めた駒大苫小牧だったが、攻撃が単発で終わることが多く、#61阿部、#65荒川が得点するも開志国際が40-25とリードを広げて前半終了。

3Q、駒大苫小牧は開始から5分以上無得点が続ぎ、苦しい状況となる。開志国際はこのピリオドで#13高橋の2本を含む4本の3Pなどで点差を更に広げ、63-35の28点リードで終了する。

4Q、粘りたい駒大苫小牧は最後のがんばりを見せるが、流れを大きく変えるまでにはならない。開志国際は控えのメンバーをコートに立たせる展開にもち込み、83-45で勝利。開志国際は4勝1敗で優勝、本大会の4連覇を決めた。